

令和2年度

学生によるオレンジリボン運動

愛知県立大学 実施報告書



実施主体 愛知県立大学村田ゼミ

実施内容 コロナ禍における学内を中心とした子ども虐待防止啓発活動～地域への発信を目指して

①事前に取り組んだ内容

- ①授業やゼミの中で子ども虐待について学び、またその対応や対策を理解する。
- ②配布物となるオレンジリボンの描かれたしおりの製作。
- ③オリジナルの啓発ポスターと掲示物の内容の検討と製作。
- ④「子ども虐待に関する認識調査」についての内容の検討。
- ⑤大学図書館ホームページでの紹介図書の検討。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ①在学生を対象としたオンラインによる子ども虐待学内学習会の実施し、運動の概要説明と事例検討を行った。
- ②オリジナルのオレンジリボン運動啓発ポスターの作成と学内への掲示
- ③オレンジリボン運動の標語とアンケート調査 QR コードを記載したオリジナル啓発グッズ（ラミネート製のしおり）を製作し、学内外で配布。
- ④在校生と学内職員、学外での自治体主催の講演会の出席者を対象に「子ども虐待に関する認識調査」の実施と結果の分析および考察を行った。
- ⑤大学図書館のホームページを活用した子ども虐待関連図書の紹介
- ⑥子ども虐待およびオレンジリボン運動に関する資料の学内展示

③オレンジリボン運動を終えて…

〈子ども虐待に関する認識調査〉

大学内での調査に加えて、学外の地域住民や行政職員へと対象の拡大を図った今年度の調査は、オレンジリボン運動および189を「知っている」と答えた人の割合はおよそ70%にとどまった。大学内はもちろんのこと、地域住民をも含めて周知活動を拡大する必要性がわかった。また、虐待防止の方法に関しては、「親への罰では虐待を防ぐことが難しい」と感じている人が多く、支援が重要であるという認識が多数を占める一方で、支援につながる「窓口の存在や場所がわからない」ということが明らかとなった。



〈学内学習会〉

事例検討では、「虐待ではなかった場合にその家族の絆を壊してしまうのではないか」、「虐待だと確信する情報や証拠がないと通告しづらい」といった意見があり、通告によってもたらされる結果への不安から行動することへのためらいが生じることが明らかになった。しかしながら、「地域の気づき」と「通告」という行動によって、子ども虐待を予防することができることを伝えることができた。このことを通して、子ども虐待は決して他人事ではないと認識し、私たち一人一人がどのように見つめ、考え、行動するのかを考える機会となったと思われる。

〈大学図書館を活用した図書紹介と啓発グッズの配布〉

大学への通学制限の伴う図書館への来館者の減少を踏まえ、ホームページを活用した関連とその紹介を行うことができた。併せて、図書の貸し出しに際してオリジナル啓発グッズであるラミネート製のしおりを配布した。図書としおりをセットにすることによって、関心を持ってもらうきっかけになったと考える。

〈啓発に向けて意識したポイント〉

オンラインによる学内学習会やQRコードを使用したアンケート調査など積極的にインターネットを活用して、コロナ禍においても今までの活動を継続できるよう工夫した。

子ども虐待防止 学生によるオレンジリボン運動



このポスター展示は学生によるオレンジリボン運動の一環で行われています。11月は児童虐待防止推進月間なので、子ども虐待に関する図書を紹介しています。紹介文を読んで興味を持った方はぜひ図書館で借りて読んでみてください！

企画：愛知県立大学社会福祉学科 村田ゼミ

『ぼくをたすけて：子どもを虐待から守るために』 子村純文/塚村明雄 中央法規出版、2004年。 「どんなひどい虐待を受けても、子どもが自分からSOSを発することはとても難しいものです。」 子どもを守るために、あなたができることは何でしょうか。まずは虐待について知る事が大切です。この本が、あなたの虐待に関するあらゆる疑問に答えてくれるでしょう。		『わかってほしい』 MOMO子/YUKO絵 クレヨンハウス、2003。 ニュースでは報道されない子どもたちの悲しい思い、苦しむ姿のつづりあいが、絵本という形でストーリーに表現されています。 子ども虐待を理解する一歩となるこころの扉を開いてください。	
『ネグレクト：育児放棄 -真奈ちゃんはなぜ死んだか-』 杉山春『書』、小学館、2007。 「ネグレクト」 それは「冷血」な親であることですか？ あなたには関係のないことですか？ 2005年に愛知県の児童虐待で起きた真奈ちゃん の虐待死事件がもととなり、この本が1冊から 読みが深まってくるはずです。		『私も虐待ママだった：虐待連鎖を超えて』 飯田美幸著、悠風社、1996。 「一般に虐待は世代を隔てて繰り返すと言われています。子ども心に大きな傷を残す「虐待」。 その子が大人になっても、同じように子どもを虐待してしまうのはなぜか？ 大人になっても癒えない大人たちの苦しみ、子どもと癒えない自分と向き合っていくのか、一緒に考えたいませんか？」	
『ソウのお仕事：50の物語 (ショートストーリー) で考える子ども虐待と児童相談所』 有山由衣、川北実著、フエックス、2020。 児童相談所で働く人たちの日常を軸とした50の物語。 強りが変わる。子どもとその家族は日々の中で何を思い、感じているのでしょうか。 子ども虐待の関わり方についてみませんか？		QRコードを読み取ると本の所蔵詳細(OPAC)が表示されます。	

長久手キャンパス図書館



【愛知県立大学】 <http://www.aic.ac.jp>